

アーカイブから紡ぎ出される知

「アーカイブすることの意味」

長尾 真

国立国会図書館長

「Linked Data アプローチによる芸術情報統合の試み」

武田 英明

国立情報学研究所 学術コンテンツサービス研究開発センター長

芸術・文化を創造する者、それら情報を集積する者そして流通させる者。それらが次世代レベルのアーカイブを介してつながるとき、芸術・文化からどのような知を紡ぎ出すことができるのか、その可能性を探る。

「3次元アーカイブの可能性」

北郷 悟

東京藝術大学副学長、彫刻家

「アートとアーカイブをめぐって」

四方 幸子

文化庁委託メディア芸術コンソーシアム構築事業企画ディレクター

2010年 12月 19日 (日) 13:00 受付開始
13:30-(第1部 講演) 16:30-(第2部 ディスカッション)

東京藝術大学上野校地美術学部中央棟 第1講義室

入場無料・要参加申込(定員180名) / 主催 東京藝術大学 芸術情報センター
参加申込 <http://amc.geidai.ac.jp/>

問い合わせ amc-info@noc.geidai.ac.jp

アーカイブから紡ぎ出される知

開催概要

今回東京藝術大学芸術情報センターでは、シンポジウム「アーカイブから紡ぎ出される知」を開催します。国立国会図書館、文化庁委託メディア芸術コンソーシアム構築事業、国立情報学研究所、各分野を代表する機関からそれらを代表する第一人者の方々をお招きし、われわれ東京藝術大学の取り組みとあわせて、各々の現状を紹介していただきます。高い専門性を踏まえた複合的な視点から意見交換を行うことは、芸術・文化のアーカイブの持つ特色を明らかにするだけでなく、今後とるべき方針をより明確なものにするのではないのでしょうか。アーカイブ一般に関わる現在の問題点をみなさまと共有することで、東京藝術大学、日本、そして世界が、どのように創造した芸術・文化、それらの集積、そしてその流通から、どのような知を紡ぎ出すことができるのか、その可能性を探ります。

講演者

長尾 真 (国立国会図書館長)

「アーカイブすることの意味」

芸術作品やそれらに関する各種の資料をデジタルアーカイブすると何が可能であるか、アーカイブ化の価値はどこにあるかを問うことが大切である。デジタル化することによって、これらの文化・芸術作品をいろんな観点から類別し、関係する文献や他の情報と関連づけることが容易になり、比較検討することができる。またこれらはいろんな観点から解体することができ、それらを1つの作品に統合している目に見えない構造・意味を追求することができる。異なった概念に属す作品の部品群や新しい部品を導入し、これらを新しい動機、新しい創造的観点から統合することによって新しいユニークな芸術作品に作りあげることができる。こういったことについて考察してみたい。

北郷 悟 (東京藝術大学副学長 彫刻科教授)

「3次元アーカイブの可能性」

3次元デジタルデータから忠実なる素材復元を行い、鑑賞者の「見る」だけでなく「質感に触れて感じる」などの、「芸術の素晴らしさを伝える」研究を紹介する。展示会の特色となるデジタル研究から生まれた成果は、『女』(東京国立博物館所蔵、重要文化財)から3次元データを取得し原寸大の新たな複製ブロンズを制作。本物の質感が感じとれる“触れる彫刻”としての試みたものである。これまでの表現制作の中から培った経験と感性を活用して完成された3次元デジタルデータは、アナログとデジタルを融合したこれまでにない優れたデータを生み出している。それらは専門の技術によって優れた収蔵品の芸術性を表現し「触れる彫刻」として実現したものである。3次元デジタルデータの可能性は、アーカイブのみならず教育普及利用としても大きな期待が持てるものである。

武田 英明 (国立情報学研究所 学術コンテンツサービス研究開発センター長)

「Linked Data アプローチによる芸術情報統合の試み」

芸術情報を社会において広く共有して利用していくことは今求められている。しかし、日本においてはミュージアムの持つ情報は分散的かつ独自に管理公開されてきた。そこで我々はセマンティックWeb分野で発展してきたLinked Dataの手法を用いて、芸術情報を統一的に共有・利用できる仕組みの構築を目指している。本講演ではLinked Dataの役割、日本におけるLinked Dataの課題を踏まえて、我々のプロジェクトの現状を紹介する。

四方 幸子 (文化庁委託メディア芸術コンソーシアム構築事業企画ディレクター)

「アートとアーカイブをめぐって」

デジタル・ネットワークの進展は、これまでの「アーカイブ」という概念を社会全般、そして芸術分野においても揺るがしつつある。現在ウェブ上で流通しているソーシャルメディア的な情報共有システムは、アーカイブを残す主体性やシステム自体のデジタル化による拡散を促進している。またメディアアートにおいては、従来の完成された「作品」という概念にとどまらず、ソフトやハード、インターネット環境に依存するもの、加えてウェブ上のシステムを利用する「プロジェクト」的な側面をもつものも多い。アーカイブ、というものの現在そして未来について、どのように考えていけばいいのかを、事例を挙げつつ検討したい。

入場無料・要参加申込(定員180名)

主催 東京藝術大学 芸術情報センター

参加申込 <http://amc.geidai.ac.jp/>

問い合わせ amc-info@noc.geidai.ac.jp

開催日時
2010年12月19日(日) 13:00 受付開始
会場
東京藝術大学上野校地 美術学部中央棟 第1講義室 〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8

タイムスケジュール
13:30- 開会挨拶 黒川 哲郎 (芸術情報センター長)
第1部 講演 13:40-16:00
北郷 悟 (東京藝術大学副学長 彫刻科教授)
四方 幸子 (文化庁委託メディア芸術コンソーシアム構築事業企画ディレクター)
武田 英明 (国立情報学研究所 学術コンテンツサービス研究開発センター長)
長尾 真 (国立国会図書館長)
16:00-16:30 休憩
第2部 ディスカッション 16:30-18:00
講演者4人によるディスカッション
18:00- 閉会挨拶 黒川 哲郎 (芸術情報センター長)
18:30-20:30 懇親会